

解答

- ① 管弦の遊びをなさっているようだ。
- ② 前々からの心づもりは
- ③ 盛大なご準備
- ④ 現実でも夢でも
- ⑤ 評判が出てきた。
- ⑥ 天皇にお手紙を差し上げなさる。
- ⑦ 空を渡る太陽の光も隠れ
- ⑧ この子の顔かたち
- ⑨ いやだと思っている様子
- ⑩ あたりの様子はしみじみとあわれである。
- ⑪ 変化(無常)の道理を知らないからである。
- ⑫ 学才が非常にすぐれ
- ⑬ 品性の程度が推測されて
- ⑭ いっこうにそのききめがない。
- ⑮ 便りなどもしないで
- ⑯ ご因縁が深かったのだろうか
- ⑰ 定まった順序がある。
- ⑱ 冬は早朝(が趣がある)。

- で把握しておく。
- ⑥ 後に「御文奉る」とあるので、この「公」は人の意と判断する。
 - ⑫ 「世に」は副詞で、実に、まことにの意。
 - ⑭ 「さらに——なし」は、全く——ないの意。
 - ⑮ 「で」は、打消接続の助詞。…ないで、…なくての意。
 - ⑰ こういう「句ひ」を、現代語に引かれて誤訳しない。
 - ⑳ 「いにしへの人」は、昔ふうの人、昔かたぎの人。
- 口語訳
- ① 月が美しいので、夜が更けるまで管弦の遊びをなさっているようだ。
 - ② 前々からの心づもりは、すべてはずれてしまうのかと思うと
 - ③ 盛大なご準備のありさまである。
 - ④ 現実にはもちろん夢にもあなたに会わないことだなあ
 - ⑤ このことから歌人の世界で高い評判が出てきた。
 - ⑥ たいそう落ち着いた様子で、天皇にお手紙を差し上げなさる。
 - ⑦ 空を渡る太陽の光も隠れ 照る月の光も見えない

- ⑱ 筆跡の上手下手
- ⑳ 数年来遊び慣れてきたところ
- ㉑ 美しい色つや
- ㉒ 少しでもまちがいを見つけて
- ㉓ 子どもらしい声で書物を朗読しているのは
- ㉔ 神様へお参りすることが本来の目的である
- ㉕ 今日のごちそうの支度
- ㉖ 風情ある滝のほとりである。
- ㉗ 昔ふうの人で、由緒ある家柄の方であって
- ㉘ 男との仲をつらいと思っ

発展演習 1

エ

発展演習 2

- 1 長年ご計画なさった
- 2 新年の準備
- 3 二つそり手紙などを通わせるような時に、文字を書けなければ、残念だ。

解説

- ① 文末の「なる」は、推定の意で訳す。
- ④ 「うつつ」と「夢」が対義語であることを、この例文

- ⑧ この子の顔かたちの美しいことはこの世にくらべるものもなく
- ⑨ このもとの女は、いやだと思っている様子も見せないで
- ⑩ (車を) 門内に引き入れるやいなや、あたりの様子はしみじみとあわれである。
- ⑪ 永久に不変であることを願って、変化(無常)の道理を知らないからである。
- ⑫ 右大臣(昔原道真)は、学才が非常にすぐれ、りっぱでいらっしやう
- ⑬ 面白くないことを言ってもよく笑うことよって、(その人の) 品性の程度が推測されて
- ⑭ 並々でない加持祈禱が行われたが、いっこうにそのききめがない。
- ⑮ 心の中では忘れないものの、便りなどもしないで
- ⑯ 前世においても、ご因縁が深かったのだろうか
- ⑰ 四季にはそれでも定まった順序がある。
- ⑱ 冬は早朝(が趣がある)。雪の降った朝は言うまでもない。
- ⑲ 筆跡の上手下手も、歌が時に合わなくてもかまわな

